

太閤ゆかりの能舞台幽玄

back



観客を魅了した「敦盛」

浦の浦で「敦盛」などに見入る

豊臣秀吉ゆかりの福山市鞆町の沼名前神社能舞台で八日、能の上演会「鞆の浦名舞台」が紡ぎ出す時代があった。歴史ある舞台での能の披露に市民ら約八百人が見入った。

市や能楽関係者らでつくる実行委が主催。市内に能楽堂を構える喜多流大島家の能楽師大島衣恵さんが能面を着け、「敦盛」を披露。吊いに感謝して舞う平敦盛の亡霊を演じた。沼名前神社の勇壮さを

伝える「鞆浦」の謡の解説もあった。

能舞台は豊臣秀吉が伏見城に建設。江戸時代、同神社に移設されたとされる。組み立て式で、戦場にも持ち運ばれていたと伝わる。

一九五三年、国重要文化財に指定された。福山をPRするため開催された上演会では、地元の子供や児童生徒も出演し、練習の成果を披露した。福山市加茂町の主婦山下加代さん(61)は「立派な舞台で能を見る機会は少ない。迫力がありました」と話した。

(山崎雄一)